

復 命 書

18年5月15日

静政会 代表

鈴木 和彦 様

議員名 佐藤 成子

下記のとおり、政務調査費による視察を実施したので、ご報告します。

記

1 日 程

18年 5月 13日(土)

2 視 察 先(都市名、視察施設等を具体的に)

東京都千代田区 女性のための政治スクール参加

3 視 察 内 容(調査事項、調査結果を具体的に)

「選挙に勝つメディア戦略」 高橋 茂氏(株『世論社』代表取締役)

「韓国の政治状況と日韓関係」 小菅 幸一氏(朝日新聞論説委員)

4 そ の 他(所感、感想等)

別紙参照

女性のための政治スクール

韓国の政治状況と日韓関係 朝日新聞論説委員

小菅幸一氏

竹島に見る韓国の姿は、まず、民族至上主義の現れで、ミリタリズムと儒教、ナショナリズムの三位一体社会と表現した。歴史認識の違いは大きい。2006・4・25に出された大統領の特別談話はすごい内容だと思った。『独島は、わが国土だ。単なる国土ではなく、40年の痛恨の歴史がはっきりと刻まれた地だ。』2003・6・9日本国会での演説は、『韓日両国民が、胸襟を開き、真の和解と協力の時代を開くことに貢献したい。と私は思う。両国民が過去の歴史問題の影から完全に開放され、自由に交流し、互いに助け合う時代が1日も早く来ることを心から望む。。。』3年の変化は大きいと思う。2002年。5年の任期で、いわば、韓国の市民改革に押し上げられて誕生した苦学して弁護士から大統領になったノムヒョン氏。透明性があるの肯定面もあるが、格差拡大、地方の地

価高騰など否定的見方もある。現在支持率は、不支持が6割・支持が2・5割位だ。

つい先日のソウル首長選挙では、野党のハンナラ党が勝利している。弾劾政局だったり、次期大統領選挙が注目される。日本政府も隣国とどう関わっていくのかかなり大事なことでと痛感する。拉致問題も含めて政治の力に期待したい。

韓国社会における女性の立場は、伝統的儒教の精神にささえられているが、民法改正・戸主制廃止や、女性の社会進出も目覚しい。女性省の設置、女性首相を生んでいる。一方少子化は、特殊出生率1・08で世界最低とのこと。女性の高学歴率も韓国の方が高かった。子供を生み育てることが、女性に不利にならない社会の仕組みづくりはいずれも大きな課題だ。

女性のための政治スクール

選挙に勝つメディア戦略 株式会社世論社

高橋茂氏

インターネットを有効に使うことがいかに大事なことかと話し始めた。2005年の総選挙で、マスメディアでの民意の動向は、投票に影響はでなかった。そんな中、注目すべきことは、マスメディア以外のサイトや自民党のメディア戦略、進歩のない立候補者サイト、公選法の壁など事例を出して説明された。

自民党は広報本部に参謀を置き充実させていた。8割以上の候補者が公式サイトを持っているが、業者作成のホームページビルダーが多い。ブログを使いこなしていない。重要なのは、自己紹介・プロフィール・理念政策・活動報告・本人の声。いかに個性を出すかが大事だとのこと。また充実したホームページも公示日でストップしなければならないし、動画や音声はどうなるのかなど今後の課題ということだ。公選法の改正のポイント。告示・公示以前以後の活動。立候補者

側と有権者側の活動の違い。メールの扱いなど。よは、何ができるかではなく、何ができないかの規定。また、誹謗中傷の定義は？監視できるか？など規制が必要だ。それにしても、政党の戦略には、インターネットなくしてはできない時代だ。政治を身近なもの。メディア戦略の重要性は言うまでも無いが、インターネットはあくまでも補助食品、24時間勤務の別動部隊が必要との結論だった。まだまだ、高齢者にメールを発信しようとしてもできないことが多い。人力との狭間をどう繋いでいけるか大事なことだと実感した。